



家庭の時間 ～くらしの時間～

校長 井之上 良一

前世紀の初頭。戦前の昔ということになりますが、この国には貧しさの中にも豊かさを実感できる状況が確かにあったのではないかと想像されます。そして、それは家庭の時間という、子どもの自立にとって欠くことのできない大切な時間だったのではないかと思います。

大正11年、北海道の旭川に生まれた作家の三浦綾子さんは、自身の思い出を随筆の中で次のように述べています。

「子どもというものは、金などもらわなくても、楽しく働けるものだ。人けのない早朝の街を、重い牛乳瓶を下げて、私は一人黙々と歩く。それは誰にも妨げられない私だけの時間なのだ。そんな中で私は、さまざまなことを想像した。この牛乳配達によって、想像力と創造力、そして体力が養われたような気がする。子どもに対する報酬は、何も金でなければならないことはない。無報酬で働くこと自体、尊い報酬である。」

彼女は、小学4年生の秋から女学校を卒業するまでの7年間、牛乳販売店を営む長兄の仕事を手伝っていたそうです。この手伝いは年中無休でしたが、報酬を要求したことはただの一度もなかったとのこと。本人もそれが家族というものだということをよく知っていて、当然のことだと心得ていたのでしょう。また、「無報酬で働くこと自体、尊い報酬である。」という言葉には、決してお金では得ることのできない有形無形の価値あるものを手に入れることができたという意味合いも含まれているのでしょう。

そして、その中の一つに、自分という存在の大切さを実感できたということもあったのではないかと思います。というのも、子どもは親が考えている以上に一人前になろうとしており、頼りにされることを確認しようとする存在だからです。三浦さんが、働くことを楽しいと思っていたのは、自分だけの時間があったことと共に、自分が頼りにされていることを日々実感できていたからではないでしょうか。

このような感覚は、子どもたちが自尊感情を形づくる上でとても大切なものですし、自立心を育む上でも必要となるものだと思います。

平成27年8月に日本生協連（通称CO-OP）が行った「家庭での手伝い」に関する調査の結果（長子が小中学生の20代から50代の女性1,000名を対象）によると、「週1回以上」手伝いをしている子どもは全体の7割弱だったそうです。

学年別に見ていくと、中学2年生を境にしてその割合が低くなるようです。「週1回以上」の割合は、中学1年生では71%でしたが、中学2年生では49%、中学3年生では52%と、中学1年生と比較して20ポイントぐらい低下していたそうです。

なお、日頃どのような手伝いをしているかについて、最多だったのは「食後の食器下げ」（65%）、次いで、「食事の準備」（37%）、「弟・妹の世話」（29%）の順だったそう

です。

この調査結果から、手伝いの内容はさておき、おおよそ5割程度の子どもの家庭での手伝いをほとんどしていないという実態が浮かび上がってきます。

おそらく本校においても、似たような現状にあるのではないかと思います。実は、かつての我が家もそうでしたが、家庭の中で子どもが手伝いもせずにお客さんになっている状況が少なからず見受けられるのではないのでしょうか。

本調査における「その他参考になる事項」

【料理の際、どのような手伝いをしているか？】

- 食材を切る（40%）
- 野菜の皮をむく（33%）
- 米を炊く（26%）
- 食材を混ぜる（26%）
- 食材を洗う（22%）
- ◆ 小中学生ともなると、食材を混ぜたり洗ったりといった単純な作業に加え、食材を切ったり皮をむいたりするなど、刃物を使うこともある、やや難しい手伝いにも取り組んでいることが分かります。



【子どもと一緒に作りたいメニューは？】

- カレー（49%）
- ハンバーグ（35%）
- 餃子（35%）
- おにぎり（31%）
- たこ焼き（22%）
- ◆ ハンバーグや餃子、おにぎりなどは、こねる、包む、握るといった作業で形が出来上がり、子どもたちに自分が作ったという満足感を与えられるところが魅力なのかもしれません。

三浦さんが幼少だった頃は、家族全員が生活に追われていて、家事を手伝うのがむしろ当然の時代だったわけですが、現在の日本の子どもたちは、海外の子どもたちと比較しても、手伝いが少ないと言われています。そのため、働くという経験が不足しており、感謝されることや感謝の気持ちを表すことなど、社会での人間関係に必要なコミュニケーションを実際に経験する機会が少なくなっていると考えられます。

一昨年度から、本校で取り組んでいる「学校と家庭の『共働』実践事項」の中に、「学習機の机上や玄関の靴等の整理整頓（家の手伝いをさせることも含む。）という項目を設定しています。この項目の中に「手伝い」という文言が入れているのは、家庭でのくらしの時間を大切にしてほしいという願いも込められています。

勉強や部活動、習い事等に追われ、何かと忙しい今の子どもたちには、手伝いの時間を確保することが難しい面があります。

しかしながら、「家族というものは助け合うものである」ということを実感できる家庭の時間、くらしの時間を、今、できる限り多く経験させてあげたいものです。

いよいよ長い夏休みがやってまいります。夏休み期間中は、学期中に較べると時間的な余裕が生まれやすいものと思われます。この間に、日頃できない意義ある体験をたくさんしてほしいと願っております。「茶碗・皿洗い」や「部屋や庭の掃除」、「玄関の靴並べ」、「風呂やトイレの掃除」など、家庭の状況に応じて大いに手伝いにも取り組ませていただければ幸いです。



花いっぱい活動（R3.6月）
（地域の美化活動のお手伝い）

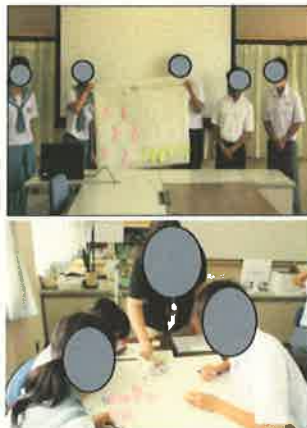
福祉に関する学習 7/10

7月の土曜授業の中で、「福祉に関する講話」を実施しました。

日置市社会福祉協議会の児玉先生をはじめ、4人の先生方を講師としてお招きし、講話にグループワークを交えながら学習を進めていただきました。

講話では、「福祉」とは、「幸せ」「ゆたかさ」を意味することばで、**ふだんのくらしのしあわせ**を実現する営みであることを理解し、相手を思いやる心に気づき、社会貢献活動・地域貢献活動につなげ、地域の中で自分たちに何ができるのかを考える事を目標にして学習しました。

グループワークでは、3つのグループにわかれ、スライドに写された「場面図」から「気づいた」ことを付箋に書き出し、それをグループ内で発表しながらカテゴリー別に広幅用紙に貼っていきました。その後、カテゴリー別に分けた「気づき」を見ながら、「できること」を付箋に書き出し、グループ内で話し合いました。そして最後にグループごとに発表しました。グループ協議は大変活発に行われ、講師の先生方も感心されていました。今回の学びを基に、身近な人や地域の人を思いやり自分たちに何ができるかをさらに考えていきたいと思います。



【授業後の生徒の感想】

- 町を歩いているとき、目が不自由な方が白杖を使って点字ブロックを歩いていることがある。そのような人に会ったときは、お手伝いしたり、自分にできることをやりたい。
- 困っている人がいたら、自分から進んで助けに行きたいと思う。見て見ぬ振りをするのではなく、勇気を持って行動したい。障害のある人の支えになりたい。
- 町の中には、いろいろなバリアフリーがあると気付いた。困っている人がいたら、助けることが大切だと思う。(場面図を見て)いろいろな人がいて、生活するの難しい所もあると分かった。
- (グループワークを通して) 私は、学年の違う人と考えることはとても良いことだと思った。あと、いろいろな意見が出るので良い経験になった。
- グループワークを行うことで、それぞれの意見が出て、良い考えが出てくると思いました。一人だけだと上手くまとめることができませんが、何人かで話し合えば上手くまとまり良い考えになると思いました。
- 自分は「福祉」と聞くと難しく考えることが多かったのですが、身近に困っている人がいたら助けてあげることが大切だと分かりました。ただし、相手の気持ちを考えて行動した方がコミュニケーションも取ることができて周りの人とも協力できるのではないかと考えました。

薬物乱用防止教室 6/24

日置警察署から3名の方が来校され、薬物乱用教室が行われました。前日の新聞で報道された大麻取締法違反の疑いで鹿児島県警が少年4人を逮捕したお話から始まり、生徒たちは驚きを禁じ得ない様子でした。講話や動画視聴から、いろいろな薬物があり、薬物を使用する事による恐ろしさ「依存性(やめたくてもやめられない)」「耐性(体が薬物に慣れて使用量が増えていく)」などから薬物がやめられなくなり、更には殺人や放火などの犯罪にまで発展していくことを学習しました。

生徒たちは、真剣に聴きながら薬物乱用をしないために、どんなことに気を付ければ良いか考えている様子でした。この学習を折に触れて思い出し、真剣に向き合っていって欲しいと思います。



救命救急講習 7/16

日置市消防本部の3名の方を講師に招き、救命救急講習を行いました。例年と同様、職員研修と家庭教育学級も合わせての講習会となり、保護者も5名参加して頂きました。

救急車が到着するまで平均9分はかかること、その間に心肺蘇生を施すことがとても重要であること、倒れている人を発見したらまず自分が率先して行動し、周りの人とチームを組みながら心肺蘇生に当たることなどを学習しました。

その後、5グループに分かれて実習に入りました。男子生徒グループも女子生徒グループも3年生が模範となり、その姿を見た後輩たちも模倣しながら心肺蘇生法の実技に取り組みました。

保護者からの質問をもとに、丁寧な応答をしていただき、AEDに対する知識もさらに深めることができました。いざというときに備えて心肺蘇生の技術は確実に身に付けたいと改めて思われた講習会でした。



夏季休業中の行事予定

| 月 | 日 | 曜 | 主な行事予定 |
|---|----|---|----------------|
| 8 | 2 | 月 | 出校日 |
| | 12 | 木 | 学校閉庁日(～16日) |
| | 20 | 金 | 出校日 |
| | 20 | 金 | 妙円寺詣りの歌暗唱大会 |
| | 27 | 金 | 保護者セミナー |
| | 29 | 日 | P T A 校区合同愛校作業 |

小中合同保護者セミナー

(日時) 8月27日(金)

19:00～20:30

(場所) 土橋地区公民館

(内容) SOSの出し方教育